

<h2 style="text-align: center;">野井原上組の水車（のいばるかみぐみのすいしゃ）</h2> <p style="text-align: center;">～県重要有形民俗文化財の水車～</p>	<table border="1"> <tr> <td>分野</td> <td>産業</td> </tr> </table>	分野	産業
	分野	産業	
<table border="1"> <tr> <td>地域</td> <td>七山</td> </tr> </table>	地域	七山	
地域	七山		
<p>■県重要有形民俗文化財 野井原上組の水車</p> <p>野井原上組の水車は、玉島川に注ぐ野井原川から取水し、長さ約36mの車井での流れ水を利用している。いわゆる胸掛水車（中落し）であって、水輪の直径3.4m、幅0.74mの水車を27枚の柄杓と呼ばれる水受が受ける仕組みになっている。水輪には、片側9本の日脚をもち、その回転力を八角形の芯木に伝え、芯木に取り付けられた羽子木で5本の杵を上下させるものである。</p> <p>当水車は、いわゆる寄合車であって「野井原上組水車利用組合」によって維持管理されている。野井原地区の水車に関する資料は少なく、その起源については明らかではない。上・三反田・下の各組に水車があったが、現在では上組の水車のみが稼働している。野井原上組の水車は、現在でも精米、精粉等に用いられている。</p> <p>昭和59年3月21日指定 唐津市七山藤川</p> <p>・文化財指定の理由 ※昭和59年の時点で、県内で唯一、「野井原上組の水車」だけが精米目的で実際に稼働していたため、文化財に指定された。</p>	<p>◎地図・写真・統計資料など</p>		
<p>◎エピソード・伝承・うんちく など</p> <p><相知町 町切の水車> 「町切水車」は用水路脇の高台の水田に水を送るもので、西暦1649年（慶安2年）2代目唐津藩主大久保忠職の時代につくられ、用水路の築造により自然の恵みを共有して米作りに励んで来た。</p> <p>8台の水車の記録（古文書）については、西暦1678年（延宝6年）松平乗久が下総国佐倉（現在の千葉県）より唐津藩の城主として着任したとき、大庄屋（馬場組）から提出された届書（指出帳）の控えにその事が記されている。（相知町、図書館所蔵）このことから「8台の水車」と「用水路」は西暦1678年以前に築造されたことになる。</p> <p>現在、ポンプの普及などで2基にまで減った水車を保存し、先人の知恵を伝えようと地元の皆さんが1998年から復元し、5基の水車が稲作用として活躍している。</p>	<div data-bbox="1187 241 1481 600" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1289 622 1500 649" data-label="Caption"> <p>（『佐賀県の文化財』より）</p> </div> <p>◎引用・参考文献（出典）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 社団法人 唐津観光協会HP ◆ 自然と暮らしを考える研究会HP <p>◎もっと詳しく知りたい方は</p> <p>唐津市近代図書館へお問い合わせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 電話：0955-72-3467 ■ ホームページ： http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html 		